

身近な所で 個性を活かし 働いている



①花束も慣れた手つきで作る恩田さん。周りを明るくさせる笑顔がチャームポイント。②剪定方法は花によって異なる。「はさみで切るのではなく、手でちぎった方がよい花もあります」と説明。実際にやって見せた。③可愛いひよこのお花がお客さん呼び込む。これも恩田さんたちが作ったもの。④真剣な表情で扱つみをする加藤さん。単調な作業も集中して取り組む。

しの作業所の施設長、小菅賢一さん。「ここで働く利用者さんは『花の仕入れ』『花管理（水やり・ディスプレイレイアウト・剪定など）』『接客』『レジ打ち』『店内清掃』などの作業をしています。障がいのある人も、得意なことがあります。恩田さんはお花が大好き。探究心の積み重ねで、花の種類や切り方などを自然と覚えていきました」

**障がい者への理解を
お店から広めたい**

もう一人の利用者、知的障が

いのある加藤和彦さん（54）。自ら大切に育てた花を、わが子を見るような目で見つめ、枯れた花がないかをチェックし、殻つみをします。

「ここで働く人たちは、仕事が好きで、やりがいを感じています。最初は戸惑い、『いらつしゃいませ』も言えませんでした。今では自発的に殻つみや水やりをするほど、働く意欲が向上しました。利用者の家族から『早く仕事に行きたいと、毎日言っているんですよ』という話をよく耳にします」と利用者

登

下校の子どもたちがの、にぎやかな声が響く藤久保中央通り商店会。その一画に店舗を構える花屋「フラワーショップふれんず」は前身の福祉ショップから延べ11年間、この場所

大学生も驚く 豊富な知識

ここで働いているのは、障がい者の就労支援を行う「入間東部むさしの作業所」の利用者2

フラワーショップふれんず



フラワーショップ「ふれんず」

地域の輪を
このお店を拠点に
紡いでいきたい。

藤久保中央通り商店街の一角にある花屋さん「ふれんず」。ここでは障がい者が自ら育て、仕入れた花を販売。住民と障がい者が気軽にふれあえる交流の場にもなっています。

写真:前列の2人が障がいのある利用者。後列右がむさしの作業所施設長の小菅賢一さん、左が酒井眞樹さん。

三芳町を見守ってきました。

人と職員。障がい者が育てたお花を、この店舗で販売しています。

花の香りに誘われ、店内に足を踏み入れると「いらいつしやいませ」と元気のよい声が。声の主は、「好きな色は青」とい

見守ってきた小菅さんは目を細めます。

障がい者とお客さんが、「友だち」の輪でつながるようという思いで名づけられた「ふれんず」。オープンから年を重ねた今、着実にその輪は広まっています。「町のイベントに参加したとき、利用者さんに声をかけてくれるお客さんがたくさんいます。お花を買うだけではない、近所で障がい者とふれあえることが、地域の輪を作ることにつながっています」

このお店が地域で障がい者と気軽にふれあえる場所へ。「障がいのある人も個性を活かし、身近なところで働いています。」



店内の様子。お花の陳列も利用者が行う。「お客さんが褒めてくれると嬉しい」と恩田さんは言う。

障がいへの理解と交流を、この店を拠点にして、地域の輪を紡いでほしいと思います」と話す小菅さんを、青色の花を手にした恩田さんが、優しいまなざしで見つめていました。

お花で繋ぐ地域の輪

身近な
場所で
発見



→藤久保小学校の沿道のパンジーを植えた3年生の児童たち。

町内の公園や藤久保中学校、藤久保小学校、唐沢小学校のパンジーは、ふれんずの利用者が大切に育てたもの。写真の藤久保小学校の前の沿道にあるパンジーもその一つ。恩田さんをはじめとした利用者が納品したパンジー。藤久保小学校3年生の児童たちによって、一つ一つ大切に植えられました。

ふれんず DATE

住所 三芳町藤久保 27 ☎ 049-257-2222